

第1回「2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議」結果概要

1. 日 時：平成26年11月25日（木）10時2分～10時58分
2. 場 所：京成ホテルミラマーレ6階 ローズルーム
3. 出席者：別紙のとおり
4. 議事概要

○司会（内田政策企画課副課長） それでは、ただいまから2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議を開会いたします。

私、本日の司会を務めます政策企画課の内田と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、次第によりまして会議を進めさせていただきます。

初めに、本会議の会長でございます森田知事から御挨拶申し上げます。

○森田会長 どうもおはようございます。着席にて失礼させていただきます。

第1回2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議の開催に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

皆様には御多忙の中、委員就任を快くお引き受けいただき心から感謝申し上げます。

オリンピック・パラリンピックの開催は、我が国を夢や希望にあふれた社会にする千載一遇のチャンスでございます。1964年の東京オリンピックは日本経済復興の大きな原動力となり、現在私たちがその恩恵を享受しているところでございます。そして今回、その恩恵を次世代の子供たちが得られるよう、千葉の発展につながる宝づくりに取り組むことは、我々世代の使命と言えます。

県では、今年4月に取り組みの基本方針を決定いたしました。この基本方針に基づき、将来の千葉県のため、今後どのように具体的な取り組みを進めていくのか、各分野を代表する皆様の御協力をいただきながら考えていきたいと、そのように思っております。そして、その取り組みを官民一丸となったオール千葉の体制でチームスピリットを発揮して進めてまいりますので、皆様の御協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。（拍手）

○司会（内田政策企画課副課長） ありがとうございます。

続きまして、委員の皆様を御紹介させていただきます。

2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議の委員に御就任いただきまし

た皆様は、お手元の名簿にございますとおり35名の方々でございます。

それでは、ここで私から委員の皆様を席順に沿って御紹介をさせていただきます。

初めに、荒井一利委員でございます。

荒川昇委員でございます。

飯沼喜市郎委員でございます。

石井俊昭委員でございます。

石川明彦委員でございます。

岩田利雄委員でございます。本日は代理として小柴様が御出席されております。

上田誠也委員でございます。本日は代理として川島様が御出席されております。

大室健委員でございます。

岡田光生委員でございます。本日は代理として森様が御出席されております。

京谷和幸委員、所用により本日は御欠席でございます。

続きまして、黒木慶英委員でございます。

小泉勉委員でございます。

後藤邦夫委員でございます。

三枝紀生委員でございます。

佐川知弘委員でございます。本日は代理として下河様が御出席されております。

志賀直温委員でございます。

篠崎敦委員でございます。

篠原朋子委員は、本日は所用により御欠席でございます。

続きまして、島内憲夫委員でございます。

鈴木大地委員は、所用により本日御欠席でございます。

続きまして、高柳哲男委員でございます。

瀧本寛委員でございます。

武田将次郎委員でございます。

田村悦智子委員でございます。

夏目誠委員でございます。

新倉涼子委員でございます。

萩原博委員でございます。

花島敬一郎委員でございます。

花田力委員でございます。

早川康一委員でございます。

藤野達夫委員でございます。

前田伸委員でございます。本日は代理として山本様が御出席されております。

増田明美委員は、本日は所用により御欠席でございます。

吉岡圭二委員でございます。

また、ただいま御紹介した委員のほかに特別アドバイザーとして、株式会社オリエンタルランド取締役会長、加賀見俊夫様、公益財団法人日本陸上競技連盟顧問、帖佐寛章様に御就任をいただいているところでございます。

なお、事務局として千葉県の職員が出席しておりますので、御紹介させていただきます。

鶴巻総合企画部長でございます。

浜本千葉の魅力担当部長でございます。

板倉総合企画部次長でございます。

今泉政策企画課長でございます。

続きまして、議長及び副議長の指名でございます。

設置要綱第3条3項により、議長、副議長は会長が指名することとなっておりますので、森田会長から議長及び副議長の御指名をお願いをいたします。

○森田会長 ありがとうございます。

それでは、議長及び副議長を御指名申し上げます。

まず、議長には、基本方針策定協議会の座長を務めていただきました千葉県商工会議所連合会会長の石井俊昭委員にぜひお願いしたいと思います。

また、副議長には、千葉大学教授国際担当副理事の新倉涼子委員にぜひお願いしたいと思います。

石井委員並びに新倉委員、お引き受けいただけますでしょうか。いかがでございましょうか。

ありがとうございます。

○司会（内田政策企画課副課長） それでは、石井委員、新倉委員には議長、副議長席へお移りいただきますようお願いをいたします。（拍手）

それでは、ここで石井議長並びに新倉副議長に御挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○石井議長 石井でございます。

それでは御挨拶いたしますが、今回御指名いただきまして、普通は余分な仕事は嫌だと思うんですが、これだけは喜んでお受けをいたしました。というのは、後で出てきますが、私、ちょうどオリンピックのとき、昭和39年、大学4年生でありました。オリンピックに出るぐらい一生懸命、ある運動をやっていたんですが、それがオリンピックの種目になかったんですね。今はあるんです。そんな思いがありまして、これはぜひこういうところで仕事ができればというようなことで喜んでお受けしたと、こういうことでございます。

オリンピック・パラリンピックは、千葉を世界中にアピールする絶好のチャンスであると、これが基本的な考え方だと思います。ぜひこれを頭の中へ入れておいていただきたいと思います。

それから、この名簿を見ますと、経済界からかなり委員の方が出ておりますが、これは企業にとっても大きなビジネスチャンスでありまして、住民を巻き込んでオール千葉で、知事がおっしゃいましたように取り組むことが必要であるという理念のもとでございます。

それから、3番目は、これは新聞にもいろいろ報道されていますが、今、全国各地で、もうオリンピックのキャンプ地だとか、いろいろなことで動いていますね。例えば大阪が何か会場を提供するよみたいな話も出てきました。大変急な問題になっていると思いますので、千葉県としてどうするかということをお急ぎに詰めなければいけないというふうに思います。

今日は、そういう意味で、各分野の皆様が大勢お集まりいただきましたので、忌憚のない意見をいただくというのがこの会の趣旨だと思いますが、第1回目で、まだどういう発言をしたらいいかとか、いろいろあると思いますので、きょうは県の企画部さんに実質的な進行をお願いしまして、それを聞いた上で我々としてはどんな意見を具申していくか、こういうような会議で運営をしていきたいと思っておりますので、ぜひよろしく御協力をお願いしたいと思います。

以上でございます。（拍手）

○新倉副議長 会長から副議長を仰せつかりました千葉大学の新倉でございます。

そうそうたる皆様方の前で少々緊張しております。何分不慣れでございますので、皆様方の御教授をいただきながら議長をお支えしたいと思います。

オリンピック・パラリンピックを機会に、千葉県がいろいろな意味で成熟した県になっていくといいなというふうに思っております。どうぞよろしくお願いをいたします。（拍手）

○司会（内田政策企画課副課長） ありがとうございます。

報道の皆様には、カメラ撮影はここまでとさせていただきますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、ここからの進行につきまして、石井議長にお願いをいたします。

なお、知事は、この後所用がございますので、ここで退席をさせていただきます。

○森田会長 どうも失礼します。よろしく申し上げます。

○石井議長 それでは、これより議事を進めます。

議題（１）でございます。2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議の運営及び専門部会について及び議題（２）2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた県内における取組状況についてを一括して協議いたします。

事務局から説明をお願いいたします。

○今泉政策企画課長 事務局の政策企画課長の今泉でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、少し長くなりますので、恐縮ですが着席にて説明させていただきます。

初めに、資料1、2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議についてと、このような資料がお配りさせていただいていると思っておりますが、こちらについて御説明させていただきます。よろしいでしょうか。

まず、この資料の中で1としまして設置までの経緯について御説明いたします。

平成25年9月に2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定いたしましたことを受けて、県では同年11月に県庁内の戦略推進本部を設置いたしまして、オリンピック・パラリンピックに向け、オール千葉体制で取り組みを推進するための指針となる基本方針を策定することといたしました。この基本方針の策定に当たりましては、基本方針策定協議会を設置いたしまして、有識者の皆様から御意見をいただき、平成26年7月にこの基本方針を決定した次第です。このたび、この基本方針を踏まえてオール千葉体制で取り組みを推進していくため、2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議を立ち上げることといたしました。

次に、この会議の目的及び所掌事務についてでございますが、基本方針に基づき、県市町村や民間企業、団体、大学などが互いに取り組みの方向性を共有し、情報共有及び連携した取り組みを行うことを目的としております。所掌事務としては、官民連携による取り組みを実施するための戦略の策定、それから、その戦略の推進を統括するということとしております。

次に、戦略について御説明いたします。

まず、戦略には、基本方針に掲げる5つの取り組みの方向性というのがございますが、この取り組みの方向性に沿って、それぞれの取り組みの目標を記載し、その目標の実現に向けて、

企業・団体・行政などそれぞれの主体が取り組む事項、また連携して取り組む事項を示してまいりたいと考えております。

この資料の次のページをご覧くださいなのですが、ここに戦略策定のイメージをお示ししております。ここではバリアフリー化を例に挙げた戦略のイメージを記載しております。7月に策定した基本方針では、バリアフリー化について、上のほうの四角になりますが、ここにありますように大きな視点と方向性のみをここで示しております。

新しく策定する戦略の中では、まず目標としてハード面でのバリアフリー化を一層促進すること、人材育成や情報提供の充実などソフト面のバリアフリー化を進めること、さらに大会を契機として障害のある人への理解を広げる取り組みを進めることを記載しています。

これらの目標に対応して主な取り組みの例として、例えばハード面では空港、駅などの旅客施設や車両などのバリアフリー化、大会関係施設や宿泊、観光、ショッピングなどの施設や道路等のバリアフリー化を進めることを具体的に書いてあります。

実際の内容につきましては、今後立ち上げる専門部会において御検討いただくこととなりますが、基本方針の取り組みの方向性を踏まえつつ、取り組みの目標を示した上で、企業、団体、行政などそれぞれの主体が取り組む事項を取りまとめていきたいと考えております。

なお、戦略につきましては、今年度中を一つの区切りとして取りまとめることとしておりますが、2020年までの長期間にわたる取り組みであることから、固定的に捉えることはなく、随時見直しを行い、具体化した取り組みをその都度戦略に盛り込んでいき充実を図っていきたいと考えております。

続いて、資料の2をご覧くださいと思います。よろしいでしょうか。資料2は、2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議専門部会についてでございます。

まず専門部会の役割についてですが、基本方針に基づく戦略の策定・推進に当たり、専門的見地から検討を行い、推進会議に図る案を作成することが主たる役割になります。取り組みの分野別に専門部会を設置し、そこで具体的な議論を深めていただいた上で推進会議において総合的な観点から御議論いただくというような形にしていきたいと考えております。

現時点で設置を考えている専門部会は、図にお示ししてあるとおり9つとなっております。これらの内容については、後ほど改めて触れたいと思います。

専門部会については、必要に応じて柔軟に設置や見直しを行えるよう運営してまいりたいと考えております。

続いて2ページになりますが、専門部会の構成員につきましては、現在県庁内で関連する団

体等の整理を行っているところです。できるだけ重複しないよう事務局で調整させていただき、各団体、企業、大学宛に部会委員の御推薦をお願いしたいと考えております。構成員といたしましたは各団体等の実務担当者を想定しております。

また、専門部会の開催については、後ほど議題（３）のスケジュールの中で御説明させていただきますが、第１回の会議を12月下旬から1月上旬を目途に行いたいと考えております。

次に、1から9までの各部会について、基本方針を踏まえまして大まかな検討すべき取り組みの方向性と関連する団体の例を挙げておりますので、ご覧いただきたいと思っております。この中で部会（１）がキャンプ・国際大会・MICE誘致でございます。部会（２）は競技力の向上・スポーツの普及、部会（３）が成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化、部会（４）がバリアフリー化の促進、部会（５）が外国人受入体制、部会（６）が魅力ある観光地づくり、部会（７）が危機管理・安全対策、4ページに移りまして、部会（８）が機運の醸成、国際交流の促進、部会（９）が千葉の魅力発信となっております。

続きまして、議題の（２）のほうに入ります。資料の3-1の方になりますが、議題（２）は2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた県内における取組状況についてでございます。資料、よろしいでしょうか。

それでは、現在の取り組みについて、この資料に基づいて御説明させていただきます。

まず、キャンプ誘致等については、（１）から（５）までございます5つの取り組みを行っております。

1つ目は、（１）のところですが、国際スポーツ競技大会の誘致でございます。基本方針策定協議会における御意見を踏まえまして、障害者スポーツ競技大会の誘致活動に取り組んでいるところでございます。このたび、2016年のリオ・パラリンピックの予選となる車椅子バスケットボールとウィルチェアーラグビーのアジア・オセアニア選手権が来年の10月に千葉市で開催されることが決定いたしました。今後、各競技団体や千葉市と協力しながら大会開催に向けた準備を進めてまいります。

2つ目、（２）ですが、来年8月に北京で開催される世界陸上の事前合宿の誘致でございます。これまでのところ、オランダ、ベルギー、アメリカ、カナダ、各国の視察を受け入れたところであります。世界陸上の合宿誘致は、2020年東京オリンピックの事前合宿につなげる大きなチャンスであると考えておりますので、引き続き各国に対して誘致を働きかけてまいります。

（３）ですが、日本陸上競技連盟が各国の陸連向けに設けた専用サイトを活用した県内キャンプ候補地のPRであります。こちらは関係者のみが閲覧できるサイトとなっておりますが、

千葉県の施設につきましては、ここにありますような15カ所の施設に関する情報を掲載しております。

次のページに移りまして4つ目ですが、パラリンピック選手のキャンプ受入体制整備事業です。基本方針策定協議会では、パラリンピック選手との触れ合いの機会をつくっていくことが大切であるとの御意見をいただきました。そこで、そのような御意見をいただいて、多くの人々にパラリンピック競技について理解を深めていただく、そしてキャンプ誘致に向けた地域の機運を醸成し、また誘致活動を促進していこうという、そのような考えで、誘致に前向きな千葉市、鴨川市、柏市、山武市の4市と連携いたしまして交流会やモデルキャンプを実施いたします。

5つ目は、東京オリンピック・パラリンピック開催を契機とした地域活性化事業です。キャンプ誘致に向けた受け入れ体制や海外に向けた効果的なプロモーション方法について調査を実施しております。この調査結果を今後のキャンプ誘致等の取り組みに生かしてまいりたいと考えております。

なお、参考といたしまして、キャンプ誘致を表明している市町村を掲載しておりますので、ご覧いただきたいと思っております。

次に、3ページの2というところがありますが、競技力の向上に係る取り組みについてでございます。めざせ東京オリンピックちばジュニア強化事業といたしまして、オリンピック出場を目指すジュニア世代の選抜選手強化支援といたしまして、各競技団体の取り組みに対して助成を行っております。今年度からの5カ年計画で若手アスリートの育成・強化を図ってまいります。

次に、3の魅力ある観光地づくりとして、本県の各観光地を訪ねる外国人旅行者が安心して滞在・旅行ができるよう、観光案内板の多言語表記や公衆無線LANの整備などを進めますとともに、訪日外国人に温かいおもてなしができるよう、オール千葉での取り組みを進めてまいります。また、県内各地域の観光地の魅力を高めるため、観光地における景観の向上ですとか観光公衆トイレ美化などの受け入れ体制の整備を進めるほか、千葉ならではの土産の開発、またおいしい食材の活用、ニューツーリズムの提案など、トータルでの観光地の魅力向上を図ってまいります。

次に、大会のサポートですが、これは4ページのほうになりますが、通訳ボランティア養成事業として通訳ボランティア養成検討会議を設置いたしますとともに、研修プログラムの開発を進めているところであります。

続きまして、資料3-2になります。資料の3-2は、千葉県内における仁川アジア大会事前合宿の実施状況と、千葉県内における国際大会事前合宿等の実施状況を掲載しております。ここでは、過去のオリンピック、またサッカーワールドカップなどにおいて事前合宿が多数行われておりますので、その情報を整理したものになっております。

次に、資料3-3でございます。こちらの3-3は、日本国内における北京オリンピック事前合宿実施状況を掲載しております。

また、同じ資料、この資料の2ページ目になりますけれども、千葉県内における国際大会等の開催実績を記載しております。

最後に、資料3-4になりますが、千葉県内の姉妹都市提携一覧でございます。県を含む26自治体で50都市との提携が結ばれております。このようなつながりも生かしながら、今後の取り組みを進めてまいりたいと考えております。

説明につきましては以上でございます。どうぞよろしく願いいたします。

○石井議長 それでは、ただいま事務局から説明がありましたが、大きく分けて2つだと思います。

1つは、この会議の運営を分科会を中心に行うということで、そこでかなり実質的な討議をしていただく。それをここへ持ち上げてもらうというのが第1の提案ですね。

それから、第2が、今現在のいろいろな動きの説明。それで、このほかに千葉ではこんなものができるぞというようなことが出てくるんだろうと思います。この辺はいろいろなものが出てくるでしょうし、それから、それぞれの協会に関係ある委員の方もいらっしゃると思いますので、こんなところに頼んでみてはとか、いろいろな御意見が言えるのではないかと思いますので、2番目のところはそういうことでお願いしたいと思います。

要するに、ここに資料3-4で出ていますのは姉妹都市の関係ですけれども、これはたまたま姉妹都市を取り上げたということでございまして、そのほかにも切り口がいろいろあるのではないかとことだと思っておりますので、ぜひよろしく願いしたいと思っております。

それでは、ただいまの(1)と(2)の事務局説明につきまして、これはどうだとか、御意見とか御質問があればお出しいただきたいと思っております。どうぞ。

○田村委員 ただいま説明を受けまして、ハード面での強化ということでバリアフリー化を一層深めますということなんですが、そのほかにインドアにおいて体育館、空調関係の設備がないと国際試合とかって呼べないということをお伺いしております。その辺においてのことに対してはどのようにお考えなんでしょうか。今あるものでしか対応できないというふうに思ってい

っしゃるのか、増やしていくということも考えてくださるのか、ちょっとお聞きしたいと思います。

○石井議長 それはバレーボールに限らず。

○田村委員 はい、全部です。

○石井議長 全部の競技の中でそういう施設をとということですね。事務局、どうぞ。

○今泉政策企画課長 個々の施設の問題になりますと、やはりそれぞれの所有者の方の意向もあると思いますけれども、まずその施設をオリンピックに向けてどう活用していこうかというところから始まると思います。その施設について、やはりバリアフリー化だけじゃなくて空調関係というようなことであれば、整備したいということであれば何らかの支援ということもできるようなことも検討はしてまいりたいと思います。ただ、現時点ではまだ少し先のことになりますので、はっきりしたお答えはなかなか申し上げられませんが、快適な環境でスポーツができるというような、大きな方向性としてはそのような方向性になろうかと思います。

○石井議長 田村さん、よろしいですか。

○田村委員 期待しております。

○石井議長 ということ、要望だそうでございますから。

ほかにございますか。

○志賀委員 県の市長会会長を仰せつかっております東金市長の志賀でございます。

ここにそれぞれ施設等の紹介がされておりますが、地域によっては運動施設はあっても宿泊が十分そろわないとか、いろいろな条件がやっぱりあるかというふうに思うんです。それで、その場合の移動のあり方だとか、好ましい距離だとか、その辺の考え方ですとか、あと宿泊については、ちょっと聞いておりますのは、大浴場でなくて個室の部屋に浴室がついている、こういったほうがいいんだという話も聞いておりますが、その辺の状況をちょっとお聞かせいただければというふうに思います。

○石井議長 どうですか。何か注文とかも含めて来ていますか。

○今泉政策企画課長 それは、キャンプの誘致の前提として、今数カ国がこちらのほうに視察に来ております。ただ、これは来年の世界陸上に向けてのキャンプということですが、施設としては、やはりベッドというものを希望しております。大浴場云々というところは余り触れられていませんけれども、基本的にはやっぱり施設、部屋の中にシングル、あるいはツインルームで浴室がついたものというものが求められているように聞いております。

○石井議長 どうですか。

○志賀委員 キャンプの場合は当然宿泊、それから使用できる体育館ですとか、そういう施設がやっぱりセットになっているということが必要になるんですけれども、その場合の交通面での、このぐらいだったらいいだろうという距離的な問題、時間的な問題、こういったものはどうなんでしょうか。

○今泉政策企画課長 恐らく、宿泊施設と、それから練習する施設、ここの間の交通をどうしようかということだと思えます。通常はここの間は恐らくバスをチャーターするなりの活用ということになってまいります。ただ、具体的には、公共交通機関を使うという場合もありますし、それは具体的などのチームがどういう意向でここに泊まって、どこの施設を使うという、その中でまた具体的なお話はさせていただくということになります。

○石井議長 いかがですか。ありがとうございます。

確かに市長がおっしゃるように交通の関係ってすごく大事だと思うんですね。そこで、これは単にオリンピックとパラリンピックだけの捉え方をしないで、千葉県全体の発展をどういう風に考えるかということを見ると、そのほかの要素もかなり入ってくるんだらうという風に思います。だから、ある意味では、これは千葉県の長期計画じゃないかという風な感じがしています。

そこで今の交通の話ですけれども、やはり道路は大事ですね。これ、市長会も県会の先生方も一生懸命やっていますけど、千葉の場合はやっぱり圏央道ですよ。これがまだできない。これが2020年までにできれば、勝浦とか向こうのほうも早くなるんですよ。銚子もでき上がって、それでほぼ千葉県の交通網というのは骨格ができるんだらうと僕は思っていますので、そのところは、この議題とは別に重要なことという風に思っております。

それから、もう一つは、夏目社長のところでございますけれども、成田空港ですね。これが、成田空港がもうじき、来年ですか、ターミナルができるのは。

○夏目委員 はい。

○石井議長 ですね。いわゆる近距離の空港みたいになるんだと思いますが、そういうこともこれを側面からサポートしていく大きなことだと思います。ですから、当面交通網では圏央道と成田空港がどのような施策を打っていけるかというのが大きなポイントになるんだらうというふうに私は思っていますけれども、また御異論があればお聞かせいただきたいと思います。

そのほかに御意見ございますか。

○夏目委員 今、議長のほうから成田空港の話も出ましたので、ちょっと1つだけ質問といい

ますかお願いをしておきたいと思います。

今回の推進会議、官民連携のオール千葉の体制で取り組むという大変いい組織だと思います。この推進会議が実際に機能して実務的に実動的になるためには、先ほども議長もおっしゃっておられましたが、この専門部会がキーになると、ポイントになってくるのではないかと、こう思います。この専門部会、今回9つ設置されて、ほとんどの取り組むべき事柄については網羅的にテーマとしては挙げられておると思います。ポイントは、この専門部会がきちんと機能していくためには、やはりここのメンバーが網羅的に漏れなくきちんと入ることが大事であって、かつ、そこのメンバーがある面では役割分担を明確にし、責任をはっきり果たしながら、何をいつ、どこまでやるかということについて具体的に事柄を進めていくということがポイントになるのではないかと、こう思います。そういう意味で、この構成委員が漏れなく入り機能的、実務的になるためには、事務局において調整の上選定するという構成委員の選定が非常に大切になってきますので、ぜひここをよろしくおん願いをしたいと思います。

その際、できるだけ重複を避けるようにという言葉が書いてあるんですが、これはどういう意味なのか。いろいろな事柄によってできるだけ多くの関係者が入っていただいて、その関係者にそれぞれの役割、それぞれの任務、それぞれの責任を分担してもらい進めていくということになると思うので、事柄によっては、この重複を避けるようにというのがちょっと意味がわからないので、そこをちょっとお聞きしたいと思います。

○石井議長 それでは、今の重複、最後のところね。

○今泉政策企画課長 9つの分野の専門部会が設置されます。それぞれの部会で会議を何回かやりますと、かなりの回数になってまいります。そういう中で、なるべくこちらのほうも効率的に会議は運営していきたいという風に思っておりまして、会議の開催日ですとか時間とか、こういったものをなるべく調整して、会議出席者の皆様の御負担にならないようにというように考えております。

それとあわせて、やはりどうしても重複というのはなくなるということにはならないと思います。どうしてもこの分野とこの分野に出ていただきたいという方もいらっしゃると思いますけれども、なるべくその辺の役割分担を御負担にならないような形で調整させていただきながら、このグループ分けを考えていきたいという、そのような趣旨でございます。

○石井議長 ありがとうございます。

それから、もう一つありましたが、今後のスケジュールですね。分科会、委員会のスケジュール、これについては最後に今泉課長のほうから説明をさせていただきますので、お聞きいた

だきたいと思います。

そのほかに質問等ございますか。

○後藤委員 先ほどの御説明とかお話を伺っていて、多少ちょっと私の感覚で気になっていることがありますとお話をさせていただきたいんですが、ここに事前にいただきましたオリンピック・パラリンピックに向けた取組の基本方針というところと、それから今日の資料の中に書かれているんですけども、やはりこの活動を通して次世代を担う子供たちが恩恵を得られるよということが書かれています。それは当然次世代だけでなく、現役世代も対象になっていなければいけないことだと思うんですけども、やはりこの活動を通して、千葉の方々が健康で、クオリティー・オブ・ライフが保証されて、そして本当に住みやすい県なんだということはどうつくっていくかということが問題で、そのために、やっぱり競技スポーツだけではなくて、生涯スポーツのほうにももうちょっと視点があっていいんじゃないかという、そういう印象を先ほどの説明から受けたんです。

ですから、今後分科会の中でそういうことが論じられると思うんですが、生涯にわたってスポーツ文化が享受できる県なんだと、そのことを通して健康がつくられて、あるいは長寿が保証されるとかというようなことを、ある面では研究を含めながらアピールしていくという、そういう姿勢が大事なのかなと。そして、それとともに障害のある方々のスポーツもそこでできる、いわゆるバリアフリーが実現できているということも当然その中でアピールできるという、そういう方向性をぜひ分科会というんでしょうか、委員会のほうで色濃く出していただければいいなという、そういう感想を持ちました。

○石井議長 希望と御意見というふうに受けとめておきますけれども、大変私も同感でございます。いい御意見ありがとうございました。

そのほかにごございますか。

やっぱり千葉って、土地の特徴というのをよく、日本国内だけじゃなくて世界にもPRすることが必要だと思うんですね。先々週ですかね、知事と一緒に私は北海道に行ってきたんですけども、御承知のように北海道は半年はゴルフができないですよ。もう雪でできない。ところが、向こうの北海道の経済界の人たちはゴルフが好きな人がやっぱり多いですよ。冬できないからこそやりたいんです。それで「LCCに乗っても千葉にやりに行くよ」というような回答はこの間いただいたんですが、僕はそれほうそだというふうに言ったんですよ。なぜならば、そんなに偉い人がLCCに乗るのかなとちょっと疑問に思ったものですから、そんなことで、ここに出ていないこともいろいろ話の中で出してもらおうということが大事だと思います。

ほかにございますか。

それでは、最後に今後のスケジュールを言っていただきますが、私が考えていることをちょっと最後に申し上げておきますが、オリンピック、何年ぶりですか。40年ぶりですかね。そのときの日本はどうなったかということが僕は非常に大事だというふうに思っているんですね。これは千葉県にも当然影響があるわけです。

一例だけ申し上げます。道路の話ですが、実は私は昭和36年に東京の大学の運動部の合宿所に入ったんですね。千葉から行ったんですが、そのとき、昭和36年に、実は荒川を越えるのが容易じゃなかったんです。あそこはほこりですごい道だったんですね。そこへ家財道具というか、車で行って、やっとなんとか、何時間かかったんですかね。大学の合宿所へ着いたんですけども、それが、今度は39年にオリンピックが終わって40年4月に千葉に帰ってくるときは、もう京葉道路ができていたんですね。ですから1時間足らずで帰ってきたわけです。

そのように、こういうオリンピック・パラリンピックで何かやるときは、必ずいろいろなものを整備しなくちゃいけないんですね。その整備がやはり千葉県にとって本当によりよいと、こういうことになってくれれば一番いいわけですから、そういう前提を含めていろいろな御意見をこれからお出しただければ大変ありがたいなと思いますので、ぜひよろしく願います。

それでは、もう最後ですけれども、今後のスケジュールも含めて、お話をいただきたいと思えます。

○今泉政策企画課長 それでは、資料4をお開きいただきたいと思えます。資料4はスケジュールになっております。よろしいでしょうか。

それでは、資料4、2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議スケジュールについて御説明いたします。

こちらのスケジュールは平成26年度末までの予定をお示ししております。本日、第1回推進会議を開催したところをございます。この後、12月下旬から1月上旬にかけて取り組みの分野別に専門部会を立ち上げる予定であります。この専門部会において戦略案として具体的な取り組みを検討し、2月上旬に第2回の推進会議を開催し、戦略案について御議論いただきたいと考えております。それを踏まえまして再度検討部会で検討した後、3月下旬を目途に戦略を決定したいと考えております。

なお、来年4月以降については、表の下に記載しておりますように、推進会議についてはおむね年2回程度、専門部会については、推進会議に諮る議案を検討するほか、部会の取り組

み状況によりまして随時開催することとしたいと考えております。

説明は以上でございます。

○石井議長 ありがとうございます。

それでは、ここで一応スケジュールどおりなんですけれども、ほかに何かございましたら御発言をいただきたいと思いますが、誰かいらっしゃいますかね。

萩原社長、マスコミの立場から何かありませんか。

○萩原委員 情報発信が千葉は苦手だという話ですので、そこに力を入れていただきたいというのが我々はいつも感じているんですけれども、それとは別に、ちょっと気になったのは、推進会議もあって専門部会もあって、オール千葉県での取り組みをするということなんです、いろいろな方がいろいろな形で取り組む中で、この基本方針に沿った形でやるんでしょうけれども、最終的にどなたが現場で責任を持って全てを采配していくのかなと、何かそういう形であるのかなというのがちょっと気になりましたね。何かいろいろなものが上がってきて、また会議を開いてそこで決めていくということでは、何か大変都市間競争というか、そういう競争が全国でこれは行われるんでしょうから意思決定が遅くなつてはいけないと思うので、何かそういう形で、ある程度全権を持った方の采配で全体を進めていくというようなことができたらいいのじゃないかなというふうに思いました。

以上でございます。

○石井議長 意思決定の早さのためにも県の決定のあれはしっかりしろと、こういう話だと思いますが、民間の常識で考えれば、多分その辺は企画部長だと思いますよ。最終的に大きな問題は責任を持つのは、これは当然知事ですよ。ですから、知事に迷惑をかけないように、それは部長さん方がやらなければいけないと、こういうことになるわけなんですけれども、今度の解散のあれを見てもそうでしょう。みんなが言いますね、大臣が「総理です」と。「決めるのは総理です」と言うんですよ。ですから、多分千葉も決めるのは知事だということだと思いますけれども、萩原さん、どうでしょうか。いいですか、それで。

○萩原委員 そうですね。現実には知事は大変ほかの公務もあって忙しくて、全てを陣頭指揮というわけじゃないでしょうから、ある程度権限を下におろしたような形で、例えばいろいろな取り組み、市町村なんかでも個々あって、例えば市町村だけで財政的に困った部分なんかは、ある程度県の補助が要るとかそういうときに、じゃ、これは県がどの程度補助しましょうとか、そういうところまで権限を持っている方がおられると全てスムーズに進むのではないかなという、そういうことを考えています。

○石井議長 難しいですね、これ。我々がいろいろお話しするのは担当部長でしょうね。ここへ予算をつけてくれとか、そういうのは、それは知事にはなかなか言えないもんね。ぜひ部長さん方、よろしくお願ひしたいと思ひます。

そのほかにございますか。

○前田委員（代理：山本） きょうは前田の代理で来ておりますマザー牧場の山本でございます。

きょう初めていろいろと取り組みを聞きまして、この2020年の東京オリンピック・パラリンピックの推進会議、いろいろと実行していくことによっていろいろな軸があるんだなということに気づきました。1つは、オリンピックに来る選手の人たちのキャンプ地とか、また、そういうバリアフリーの推進とか、パラリンピックを通じた障害者の理解だとかいろいろとあり、その軸を一つ一つ深く掘り下げていくということでこれから進んでいくと思うんですが、私どもは観光のほうに携わってしまして、またインバウンドの誘致の促進だとか、千葉のプロモーション協議会のほうにも参画させていただいて、いろいろな観光についてのことを日々考えていますので、その軸に沿ってちょっと1つ考えたときに、やはりオリンピックの期間中に1,010万人の方が来るというところで、それらの方々にどうやって千葉を認知してもらうか。このオリンピックを機会として、その後たくさんの方が千葉に流れ込むような仕掛けづくり、そういうものをしていくと、そのオリンピックの2020年だけでなく、その後、非常に千葉の観光にとっても有利に働いていくんだらうなという風に思っています。

そのインフラの整備だとか、また宿泊地の整備だとか、いろいろなことをしながら準備すると思うんですけども、来たときに幾ら千葉をアピールしても、なかなかすぐその場で「じゃ、千葉に行こう」という形にはならないと思ひます。事前に千葉を意識してもらう仕掛けづくり、どのように各国に、今回の東京オリンピックに来る国の方々に、どういふ国の方々が来るんだらうか。例えばアジアの方々が、その1,010万人の中で大きな割合を占めているのかとか、そういうところでどういふ地域とか国にあらかじめ千葉をPRしていくことが必要なんじゃないかなというふうにも感じております。そこら辺の取り組み、そういうところも必要なという風に思っております。

以上です。

○石井議長 ありがとうございます。そうだね、マザー牧場ね。

僕はとてつもないことを考えていたんです。マザー牧場に行くのに、木更津のアウトレットからケーブルをつくっちゃったらどうかということを考えていたんですよ。それでずっと行っ

ちゃうんですよ。これは無理なんですよ、そんなお金を出せないからね。でも、そういう破天荒なことを考えてもいいんじゃないかという風に思います。

今の観光の問題は非常に大事な問題だと思ひまして、実は全国の商工会議所の会頭会議というのをやりますと、今、どこの県も全部観光です。観光で観光立県にするんだと、物すごく競争率が高いんですよ。それと比べると、これはこれからも飯沼さんがいろいろやってくれるんだと思いますけれども、千葉県人の心根というか、それを少し変えないといけないんじゃないかと思うんですね。

この間北海道に行って、すすきのに行きました。もちろん北海道はすすきのに行かなければいけないんだから、飲んだら、居酒屋のお姉さん方でも「本当によく北海道、すすきのへ来ていただきました」というのがわかるんですね。伝わってくるんですよ。千葉はそういうものがないんです。千葉は非常に豊かですから、もうこの辺でいいやというような雰囲気なんですね。もうある程度の観光客が千葉へ入っている、何も全国一来てくれなくてもいいやというところがあるので、この辺から直していかないと観光ってなかなか難しいなというのが私の感想なんです。とりあえずちょうど時間になりましたので、もっといろいろなことを言いたい人がいると思いますが、次は最優先にしますから、きょうはこの辺で一応事務局にバトンタッチをさせていただきます。

それからもう一つ、今の国際化の問題と絡んでくる話ですからね。これは新倉さんが専門ですから、千葉大に来る、特にアジアの学生の面倒を先生が全部見ているわけですから、この辺と観光がうまく結びつけばいいのかもしれないです。この辺はまた後ほど機会があれば新倉先生からお話を聞きたいと思います。

○司会（内田政策企画課副課長） どうもありがとうございました。

本日の議事内容につきましては、議事録を作成し、千葉県のホームページ上で公表いたします。公表する内容につきましては後日確認をさせていただきますので、よろしく願いをいたします。

本日は非常に限られた時間で行いましたので、さらに今後お気づきの点などがございましたら、事務局まで御連絡をいただければ幸いに存じます。

それでは、これもちまして会議を終了いたします。

本日はお忙しい中ありがとうございました。